



ÉMILE GALLÉ

AND HIS ERA

THE ELEGANCE IN THE MODERN LIFE

黒壁美術館秘蔵の名品初公開

エミール・ガレの 生きた時代

近代生活の
エレガンス

2010年4/17(土) — 5/30(日) 午前10時 — 午後6時

入館は午後5時30分まで／月曜休館(ただし4月27日から5月9日までは無休)
 主催：(財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
 特別協力：黒壁美術館(滋賀県長浜市)
 協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷
 観覧料：一般800(600)円／大高生・65歳以上600(500)円／中学生無料
 ()内は20名以上の団体、障がい者とその付添者1名は半額
 交通：JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線 目黒駅下車徒歩10分
 東急バス：権之助坂(目黒通り)下車徒歩5分 田道小学校入口(山手通り)下車徒歩3分
 目黒区民センター敷地内 関連企画は下記までお問い合わせ下さい。
 目黒区美術館 153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36
 TEL：03-3714-1201 http://www.mmat.jp
 写真右 エミール・ガレ《花器「アルプスのアザミ」》1889-1900年頃
 写真左 エミール・ガレ《プリムラ文花器》1900年頃



M Meguro Museum of Art, Tokyo
目黒区美術館

アール・ヌーヴォーの巨匠、エミール・ガレ(1846-1904)の名前を聞いてその煌びやかな作品を思い浮かべる人は多いでしょう。しかしながら、そのガレ本人は一体どのような工芸品を見て育っていったのかということについては、これまであまり明かされてきませんでした。この展覧会では幼少期のガレを取り囲んでいたネオロココ様式の工芸品を、彼が作りあげたガラスや陶器、家具と共に展示する初めての試みです。ガレがいかに歴史的な美意識や異国の感性から影響を受けて自らのスタイルを築き上げたのかを、展示を通して知るまたとない機会となります。黒壁美術館(滋賀県長浜市)のコレクションの中から、貴重な作品を選んで出品いたします。

関連企画

4月24日(土) 14:00～
 講演会『エミール・ガレの軌跡』
 講師：鈴木 潔(黒壁美術館館長、本展監修者)
 参加費：無料(ただし展覧会チケットが必要です)
 会場：目黒区美術館内 ワークショップ室
 定員 80名/事前申込制(下記参照)

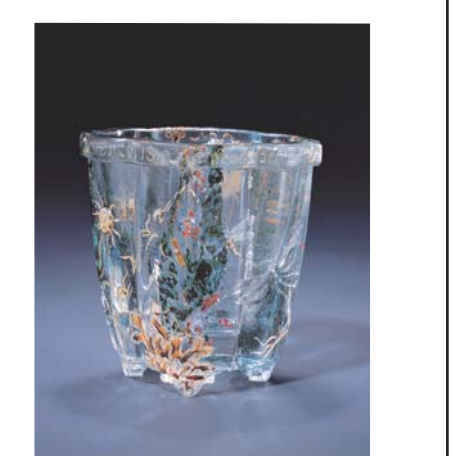
5月4日(火・祝) 18:30～
 『ガレ生誕記念ナイトツアー』ガレの誕生日にちなんで、通常の展示よりもさらに作品を身近に体験して頂くツアーです。
 参加費：無料(ただし展覧会チケットが必要です)
 会場：目黒区美術館内 展示室
 定員 30名/事前申込制(下記参照)



エミール・ガレ《ソーダ発泡アップリケ花器》1903年



エミール・ガレ《芥子文花器》1900年頃



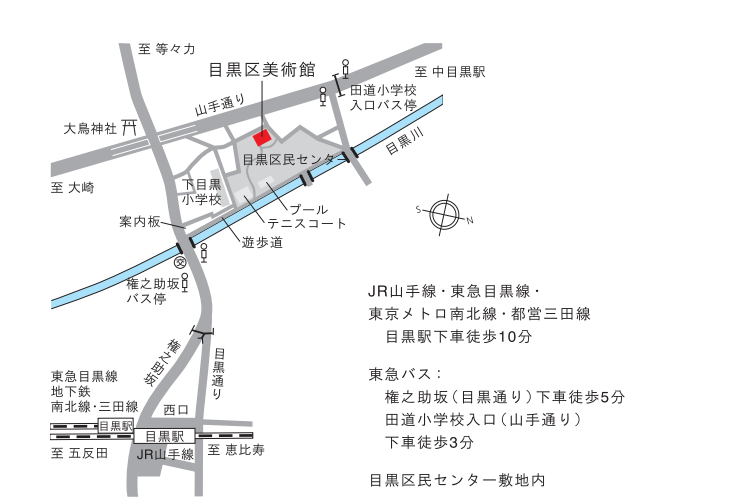
エミール・ガレ《薊・蜉蝣文杯》1889年頃



ドーム工房《マロニエ文花器》1908年頃



エミール・ガレ《オダマキ文花器》1900年頃



M Meguro Museum of Art, Tokyo
目黒区美術館

[イベントのお申込み・お問合せ]
 目黒区美術館 153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36
 TELEPHONE 03 3714 1201 http://www.mmat.jp

